

解説 ひこねいろ カルタ



©彦根市

いろとりどり 浴衣の姿 城下町
キーワード*ゆかたまつり
 夢京橋キャッスルロードが一日歩行者天国に。ステージや緑日ブース、飲食店、大抽選会などで盛り上がります。

ローカル線
 風情たのしむガチャコンの旅
キーワード*ガチャコン
 120年以上の歴史を誇る近江鉄道はガチャコンと呼ばれる、親しまれています。名前は電車の走行音に由来しているそう。

パレードで
 タイムスリップ 城まつり
キーワード*城まつり
 彦根の11月3日といえば「城まつり」。2023年で70回を数えました。子どもの頃、パレードに参加した人も多いのでは？

握る手に貯めた小遣い 糸びす講
キーワード*糸びす講
 11月下旬に銀座をはじめとする商店街一帯で開催する大売出し。1年間の販売繁盛に感謝して始めたもので、かつては琵琶湖の対岸からも船を出して買い物が大勢やってくるほど、大変なごきわいだたとされています。



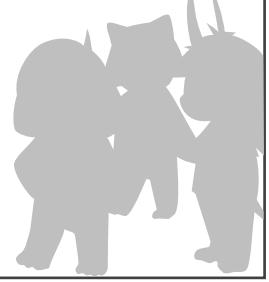
四年生登って泊まって 荒神山
キーワード*荒神山
 市内の小学生は4年生になると宿泊体験学習で荒神山を訪れます。明治初期、木の伐採が盛んになり、はげ山になってしまった荒神山に「大橋利左衛門」が苗木を植え、緑をよみがえらせたそうです。私たちが自然を満喫できるのも先人のおかげかもしれません。

大正の町並み レトロな 四番町
キーワード*四番町
 「彦根の台所」と呼ばれた彦根市場商店街を再開発して誕生した「四番町スクエア」。城下町を感じさせる旧町名「四番町」を復活させ、パティオを中心とした広場やポケットパークを配して、面的（スクエア）なごきわいを期待して名付けたそうです。

総おどり 彦根ばやしで 和む夏
キーワード*総おどり
 井伊大老開国百年祭に合わせ、1960年に作られた彦根ばやし。彦根の夏の代表的な行事の一つで、これまでの多くの人が商店街をおどり歩きました。

伝えたい 彦根仏壇 ほんまもん
キーワード*彦根仏壇
 350年の歴史を誇る伝統工芸。江戸時代、武具や武器の製作に携わっていた職人などが平和産業として仏壇製造に転向したのが始まりだそうです。城下町と中山道をつなぐ「七曲がり」には彦根仏壇の店舗が集まっています。

猫の武将 集まる通り 花しょうぶ
キーワード*花しょうぶ通り
 かつての上恵比須商店街。1996年、市の花「はなしょうぶ」にちなんで改称されました。絵札に描かれているのは、商店街独自のキャラクターの3体。左から「しまさこにゃん」（島左近）、「おおたにゃんぶ」（大谷刑部）、「いしだみつにゃん」（石田三成）。



堀端で鍛える伝統「城周り」
キーワード*彦根城
 彦根城のお堀周りを歩くことを「城周り」と呼ぶそうです。お堀のそばには「西中・東高・滋賀大」があり、部活や授業などで走った生徒や学生が多いようです。

ちゃんぼんは 野菜たっぷり お酢必須
キーワード*近江ちゃんぼん
 1963年創業「麺類をかべ」で誕生し、市内に広がった「彦根ちゃんぼん」は市民に愛されてきました。今では「近江ちゃんぼん」として、滋賀県を代表するご当地グルメの一つとなっています。

領民を見守る佐和山 三成と
キーワード*佐和山
 佐和山の標高は232.9m。山頂からは彦根城や琵琶湖、比良山系が一望できます。石田三成の居城であった佐和山城の建造物の一部は彦根城やふもとにある清涼寺、龍潭寺に移築転用されたそうです。

届けたい 輝くステージ 文化プラザ
キーワード*文化プラザ
 1997年に開館した文化芸術の創造・発信の拠点施設。彦根市民にとっては「文プラ」の略称でおなじみですね。

沼干して 生まれた恵 彦根梨
キーワード*彦根梨
 曾根沼干拓地で栽培する高い糖度と完熟収穫が特徴の彦根梨。1981年、石寺地区の農家が国の減反政策で米の代わり栽培に始めたそうです。収穫時期には、直売所に行列ができて、すぐに売り切れてしまうほど。カレーやサイダー、飴などバリエーションも広がっています。

直弼の 井伊家の家紋は 橘紋
キーワード*たちばな
 彦根藩井伊家の家紋は丸に橘で「彦根橘」と呼ばれています。旗印は井桁です。1975年には「たちばな」が彦根市の木として選ばれています。

うまいもん キャッスルロードで 食べ歩き
キーワード*キャッスルロード
 1999年に街路整備を終えて完成した「夢京橋キャッスルロード」。白壁と黒格子の町屋風に統一された街並みは江戸時代の城下町をイメージしたおりの、石畳には彦根かるたのレリーフが敷き詰められています。

井伊大老 花の生涯 美しく
キーワード*舟橋聖一
 幕末の大老、井伊直弼の波瀾の生涯を描いた歴史小説『花の生涯』。NHK大河ドラマの第一作目としても有名。作者の舟橋聖一は名倉市民第一号で、2007年には「舟橋聖一文学賞」が創設。絵札に描かれた「花の生涯記念碑」は金亀児童公園に建立されています。

乗る船が 目指す多景島 神秘の島
キーワード*多景島
 市街から沖合約6.5km、琵琶湖に浮かぶ周囲600mの無人島。古く弥生時代から島そのものが御神体として崇められました。住所は彦根市八坂町です。

来訪を 迎える駅の 直政像
キーワード*彦根駅
 現在の彦根の基礎を築いた初代彦根藩主井伊直政公。JR彦根駅西口にある銅像は彦根商工会議所青年部の創立50周年記念事業として建立。毎年「井伊直政公顕彰式」も開催されています。

紫の 彦根のシンボル 花しょうぶ
キーワード*花しょうぶ
 水辺に生育し、品位のある豪華な花をつける花しょうぶ。城下町で濠や庭園、田圃地帯などに適したところが多く、市民に親しまれていることから、1975年に彦根市の花に制定されました。

お祭りだ シャッター開け 銀座の街
キーワード*銀座商店街
 彦根城下町の形成にあわせ商業地として発展した「川原町」「土橋町」が1951年に合併し、現在の銀座町（銀座商店街）に至ります。1960年代に防災建築街区事業として整備した近代的なビル群とアーケードで構成された外観が特徴です。明治に設置された第百三十三国立銀行（その後の滋賀銀行旧彦根支店）など、趣ある建物も現存しており、近年では映画のロケにも活用されています。1957年には平和堂がこの地で産声を上げ、今も彦根銀座店として営業を続けています。

苦 労人埋木舎で 明日を見て
キーワード*井伊直弼
 若き直弼が過ごした「埋木舎」。埋もれ木とは、地中に埋まり外から見えない樹木のことで、世間から捨てられ顧みられない身の上を意味します。当時の直弼は世継ぎでなく、貧しい一生を送らねばならない不遇の身でしたが、腐らず文武の修練に精進し、茶の湯で名高い文化的教養を身に付けました。

役に立つ 生活密着 彦根パルプ
キーワード*彦根パルプ
 彦根を代表する地場産業の一つ。明治の中期に門野留吉氏が製造を始めたのが、彦根パルプの始まりといわれ、その後100年あまりの歴史を刻んでいます。

松原の 浜にきらめく 大輪の花
キーワード*花火大会
 1949年に始まり70年の歴史を誇る彦根の花火大会。これまで主に会場となってきた琵琶湖畔の松原水泳場は「鳥人間コンテスト選手権大会」の会場としてもおなじみです。

玄宮園 ちょうちん 持って 秋の夜
キーワード*玄宮園
 1677年に井伊家4代藩主井伊直真により造営された大名庭園。毎年秋にはライトアップされて、日中とは違った趣が味わえます。

若者の 活気あふれる 三大学
キーワード*大学
 彦根には滋賀大学、滋賀県立大学、聖泉大学の三大学およびミシガン州立大学連合日本センターがあり、在学者数は約6000人。彦根は「学生のまち」の一面もあるのです。

カロム盤 一家に一台 弾む音
キーワード*カロム
 ビリヤードに似たボードゲーム。「一家に一台ある」と言われるほど市民に定着しており、年に一度「カロム日本選手権大会」が彦根で開催されています。

星に出る 高校野球 盛り上がる
キーワード*高校野球
 近年、春夏甲子園での彦根勢の活躍が目立っています。野球に限らず、彦根は今、スポーツが熱い!! 2025年には国スポ・障スポが滋賀で開催され、主会場は彦根です。今後も彦根のスポーツから目が離せません。

エ レベーター 滋賀イチ高い建造物
 キーワード*エレベーター塔

彦根市に本社を置くフジテックのエレベーター研究棟。高さ170mでエレベーター研究施設として世界最大級の高さと規模を誇り、さまざまな次世代技術の開発を行っております。

金 キーワード*金亀体操
 「元気で長生き！」を目指し、足の力を保ち、向上させるために彦根市で作ったご当地体操。
 「コッコソツ続ける(根気)」と「金亀」を掛け合わせています。

フ アンデーション
 足袋工場から産声が
 キーワード*ファンデーション

明治時代、富国強兵策の一環として、彦根にも製糸工場が相次いで建てられ、足袋の優れた仕上げで知られるようになりました。その後洋服が定着したため必要になったブラジャーの生産をきっかけに、彦根ファンデーションは技術を磨き今日に至っています。

咲 く薔薇と 菖蒲、ハーブの 憩いの場
 キーワード*庄堺公園

開出今町に位置する庄堺公園。2000㎡のバラ園が有名です。バラ園は5月下旬～6月上旬と10月中旬頃、しょうぶ園は6月上旬～中旬頃に見ごろを迎えて、たくさんの方を楽しませてくれています。

天 日干しきれいなカーテン 赤かぶら
 キーワード*赤かぶら

滋賀の伝統野菜の赤かぶら「万木かぶ」の天日干し作業「はさがけ」。かつては湖岸沿いでよく見られた冬の風物詩です。

歩 き見て宿場の面影 高宮町
 キーワード*高宮宿

中山道64番目の宿場町、高宮。多賀大社への門前町としてもにぎわい、多賀大社一の鳥居が宿の中心に建っています。特産品の麻織物は、高宮布として彦根藩から將軍家への献上品にもなっていました。

ゆ る〜りと みんな大好き キャラひこにゃん
 キーワード*ひこにゃん

井伊家2代当主、井伊直孝公をお寺の門前で手招きして雷雨から救ったと伝えられる「招き猫」と、井伊軍団のシンボル「赤備えの兜」を合体させて生まれたキャラクター。ちまたでは「モチ」という愛称も…。

き んかめと 公園の名を 間違える
 キーワード*金亀公園

歴史的文化的風情があり、彦根城を含む37・9haの彦根を代表する都市公園(総合公園)。近年、人工芝グラウンドの多目的競技場や県営彦根総合スポーツ公園との連絡橋である「城北百間橋」が整備されました。

も う食べた? ご当地グルメ ひこね丼
 キーワード*ひこね丼

2011年度に彦根市制75周年記念事業で誕生した、近江米と地元食材を使った「ひこね丼」。地元で気軽に食され、観光客にも喜ばれるご当地グルメを創出することを目的に誕生しました。

白 化粧 アスパラガスも 日焼け止め
 キーワード*アスパラガス

与える肥料や土の肥え方によって味や姿が進化するアスパラガスは、緑以外にも紫やピンク、白も生産されており、稲枝地域では「ひこねアスパラ」の愛称で生産されています。特にホワイトアスパラガスは、昔は土をかぶせて光を遮る「土盛り」が主流でしたが、今ではビニールハウスの中に遮光シートを張って作る「遮光栽培」での育成に取り組まれています。

湖 の島に 出航 彦根港
 キーワード*彦根港

古くは琵琶湖舟運が盛んであった彦根港。現在は遊覧船が発着する観光拠点となっています。

名 物の 井伊家の赤色 赤こんにやく
 キーワード*赤こんにやく

赤こんにやくといえば近江八幡市が知られていますが、彦根でも井伊家の赤備えにちなんで赤こんにやくが製造されています。

引 き継ごう 足軽屋敷を リノベーション
 キーワード*足軽屋敷

江戸時代の町割り、足軽屋敷が残る「芹橋2丁目」。防御を目的として「どんつき」や「くいちがい」など、直線を選び意図的に曲げた小路が今でも残っていますが、足軽屋敷はリノベーションされて、新しいお店やコミュニティスペースが誕生しています。

絵 になる」と 集う琵琶湖のあのベンチ
 キーワード*あのベンチ

石寺町の琵琶湖岸に設置されている「あのベンチ」。SNS等で話題になって名付けられました。近所の住人の方が流木などを使って自ら製作されたそうです。

彦根の「いいね!」 みんなで 育むシティプロモーション
 キーワード*シティプロモーション

Good Roots HIKONE

す すき揺れ せせらぎ響く 並木道
 キーワード*芹川

市街地を流れる芹川は「緑かおる 芹川けやき道」として1995年「彦根八景」に選ばれました。川岸は遊歩道として整備され、けやき並木が歩く人々を見守ってくれています。

セ イヤー」と なぎなたを振る 伝統美
 キーワード*なぎなた

国スポ・障スポ2025で彦根にて開催されるなぎなた競技は、「試合」と「演技」の2つがあります。試合は定められた部位をお互いに打突して勝負を競います。演技は指定された形を対人で行ってその技を競います。

「ひこねいろカルタ」ってなに??
 ~カルタに込めた私たちの思い~

一言でいうと、今の彦根の魅力を集めたご当地カルタです。彦根のカルタといえば、彦根の歴史や文化を題材にした「彦根かるた」(1983年誕生)が市民に長く愛されています。2021年には、市民団体「三九三九*ひこねマルシェ実行委員会」さんが「彦根かるた」を通常の約20倍にした「BIG彦根かるた」を制作されました。私たち彦根市シティプロモーション戦略推進委員会(以下、委員会)で主催する野外イベント「ひこねいろ」などでも使わせていただき、たくさんの方と楽しく交流をしながら、まちへの愛着を深めることができました。そのような体験がきっかけとなり、「令和版の彦根かるたを作ったらおもしろいのではないかな?」「カルタでの交流を通じて、市内外の皆さんに今の彦根の魅力を感じてもらえるのではないかな?」という思いを持ち、2022年度委員会事業で「ひこねいろカルタ」を制作することに決めました。制作にあたっては委員会メンバーだけでなく、市民の皆さんにも関わってもらい、2023年3月にカルタが完成しました。読み札は彦根にまつわるエピソードを募集して、それを基にメンバーが作成しています。絵札のデザインは、私たちの思いに賛同してくださった彦根に関わりのある10名の皆さんにお願いしました。カルタの名称「ひこねいろ」という言葉には、一人一人がそれぞれ持つ「まち」への思い(それぞれの思い=いろ・色)をこれからも大事に育てていきたい。掛け合わせていきたい。そんな私たちの思いを込めて名付けています。絵札もデザイナーさんそれぞれのタッチで、まさに「ひこねいろ」を感じさせる仕上がりになりました。完成したカルタは、委員会の主催事業やメンバーで参加した市内のイベントなどで、お子さんを中心に楽しんでもらっています。野外イベントなどでは、私たちが手作りした「Bigひこねいろカルタ」もとても好評でした。この度、2023年度委員会事業として、「ひこねいろカルタ」を皆さんに広く親しんでもらえるように増刷を行い、市内の小学校や公共施設等に寄贈させていただくことになりました。これからも「ひこねいろカルタ」を通じて、たくさんのお会いや交流が生まれ、彦根への愛着がさらに育まれることを願っています。最後になりましたが「ひこねいろカルタ」制作に携わっていただいた皆様、私たちの活動に協力・応援して下さる皆様に心より感謝申し上げます。

2024年3月
 彦根市シティプロモーション戦略推進委員会
 会長 中川原 大樹

私たちの目指す 「シティプロモーション」とは?

彦根のシティプロモーション(略称:シティプロ)は、彦根に関わるすべての人たちが、まちに誇りと魅力を感じ、彦根への愛着を深めてもらうことを目指しています。シティプロは、「彦根っていいね!」と感じるきっかけになるすべての活動を対象にしているため、私たちだけではなく、地域のことを考えて活動している人や魅力を発信している人すべてが主役です!!

彦根市シティプロモーション戦略推進委員会
 戦略推進委員会って?

彦根のシティプロモーションに共感し、取り組みをさらに進める仕掛けづくりに関わりたいという思いを持った市民と行政(彦根市)で構成する官民協働組織です。彦根市策定の「彦根市シティプロモーション戦略」に基づき活動を展開しています。詳しくは委員会公式アカウント一覧(下記QRコード)をご覧ください。

彦根市シティプロモーション戦略推進委員会 事務局(彦根市広報戦略課内)
 電話:0749-30-6143 FAX:0749-22-1398
 E-mail: city-promo@ma.city.hikone.shiga.jp